

通卷30号 令和4年3月10日発行（年1回発行）

ISSN 1348-611 X

石川県作業療法学術雑誌

2021 No.30

主催：(社) 石川県作業療法士会

目 次

巻頭言	金沢脳神経外科病院	高多真裕美	
特集1 「認知症とともに自分らしく暮らすために大切なこと～知る, そして支えあう～」	県立広島大学保健福祉学部作業療法学コース	西田 征治	1
特集2 「地域包括システムにおける作業療法士の役割」	株式会社ライフリー	佐藤 孝臣	7
研究論文			
1. 3年制養成校における効果的な臨地実習への学びについての1報告 —学内実習を通して見えた成果と課題—	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー	竹内 佑・他	13
2. 風船バレー大会の参加が当事者に与える影響	金沢脳神経外科病院	坂井 由衣・他	17
実践報告			
1. 脳梗塞により失語症と失行症状を呈した症例に対する調理活動への支援 ～訪問作業療法による症例・家族との関り～	市立輪島病院リハビリテーション科	坂下 宗祥・他	21
2. 気づきにより麻痺側の使用頻度が増加し機能的自己効力感の向上に繋がった事例	金沢脳神経外科病院	舟見安理佐・他	26
3. 趣味のゴスペルや友人交流の再開の為外出練習を通じて働きかけた作業療法	金沢脳神経外科病院	三野 彩愛・他	30
4. 症例の能力, 高次脳機能障害に合わせた動作練習や逆方向連鎖技法を用い, 成功体験を積み重ねたことで更衣動作が可能となった事例	金沢脳神経外科病院	倉西 菜摘・他	33

5. 趣味活動の一部に焦点をあてた関わりで運動療法が進んだ事例 ～骨折後高齢者への通所リハビリテーションでの関わり～	能美市介護老人保健施設はまなすの丘	明福真理子・他	37
6. 手外科領域における病院間連携 ～シームレスなハンドセラピィの提供を目指して～	国民健康保険能美市立病院リハビリテーション科	山田ともみ・他	41
7. 独居での自宅復帰を目指した終末期脳腫瘍患者の作業療法アプローチ ～本人が希望するポータブルトイレでの排泄自立を目指して～	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院	竹中 朋也・他	46
8. 疼痛の強い圧迫骨折患者に対して排泄動作の再獲得と自宅復帰を目指した事例 ～地域包括ケア病棟での作業療法の役割～	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院	後藤ひかり・他	51
9. 「最後は自宅で過ごしたい」 ～終末期肺がん患者の“がんと共生”する主体的な生活再構築に向けて～	石川県済生会金沢病院リハビリテーション部	梶澤 祥子・他	56
10. 意欲が消失した末期がん患者への外出を目指した多職種アプローチ	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院	葛村 駿希・他	59
投稿規定			64
執筆要項			65

巻頭言

“一流”の作業療法士を目指して

金沢脳神経外科病院

高多 真裕美

最近まで、“一流”の作業療法士とは、いい臨床や研究を行い、名前を残す人だと思っていた。一般社団法人日本作業療法士協会の倫理綱領（昭和61年）では「8. 作業療法士は、後輩の育成と教育水準の高揚に努める」とあり、解説に「教育に関わる活動は、作業療法士が人々の健康の維持とその人らしい生き方に向けての治療・援助・支援の質を高め、社会に対してその使命を果たすために重要である」と記されている。故谷川正浩先生は、「覗いてみたい!?先輩OTの頭の中（三輪書店）」でプロフェッショナルについて、「仕事に真摯に取り組み、自分を高めていこうとしている」、「こちらの期待に必要十分に応えてくれる」、「一流と呼ばれるプロは一流になれる人をしっかり育てている」と記している。

後輩育成については第13回石川県作業療法学会の特別講演「教育と臨床の乖離」で岩崎テル子先生（当時、新潟医療福祉大学教授）が映画「千と千尋の神隠し」を例に説明されたことが印象深いが、当時30代の私は後輩育成に関心が向いておらず、自分事として聴けていなかったと思う。

今回初めて後輩育成について話す機会をいただいたことで、私の頭に教育のアンテナが1本追加された。作業療法教育に関する文献や一般企業の人材育成に関する書籍を読み、経営者や監督などリーダーが出ている番組を観るようになった。その中で学んだことは、作業療法教育では見学・模倣・実施等の方法論が独り歩きしていること、臨床教育者の役割は人（学習ニーズ）－環境（教育資源）－作業（自己主導型学習）を調整することで一方的に知識・技術を伝達することではないこと、学びには「7・2・1の法則」（7割は仕事の経験、2割は他者のアドバイス、1割は研修・書籍）があり、研修などのOff-JTはOJTとの連動が必要なことなどであった。後輩育成について考えるようになった私は、ようやく“二流”の入り口までたどり着いたのであろうか。

この学術誌に採択されるまでの道のりは決して楽なものではなかったと思うが、先輩方のアドバイスを受けながら自身の臨床や研究を振り返ったことは大きな財産になるはずである。手にした皆様には、新しい知見を得るだけでなく、支えている先輩の思いも想像しながら読んでいただきたい。そして一緒に後輩を育てられる“一流”を目指し続けましょう。

編集後記

新型コロナウイルスが流行して2年が過ぎようとしています。長引くパンデミックの中、私たちの働き方、暮らし方、学び方は大きく変化していると感じます。それは悪い影響ばかりではなく、今年度は初のオンライン学会の開催となり、普段は家庭の都合で参加が難しい方や県外からの参加の方も、時間や距離を気にせずに学びを得る機会になっていたと思います。いつまでこの状況が続くのかと不安にもなりますが、「今この時」をより良く過ごせるように、人々の生活や活動、交流のあり方に目を向け、寄り添えるOT視点を磨いていきたいと思っています。

さて今年も無事に本刊の発行に至りました。ご投稿いただいた皆様、査読や編集にご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。ご投稿の論文は研究から実践まで幅広く、県学会の特別講演も含まれた内容となっております。来年度は感染状況に配慮しながら3年ぶりに対面の県学会を予定しております。多数のご参加をお待ちしております！

学術部担当理事	麦井 直樹 坂下美加代
学術誌編集委員長	堀江 翔
編集委員	中嶋 理帆 岡本 聡美 西 悦子 小林亜里沙 仁木 裕也 小松 瑞生 中川 真理 宮腰 真 大西 知江 菅原ちさと 菊池 ゆひ 高間 達也 山本 紗季 米田美登里 柳内百合香 薄井 菜子

石川県作業療法学術雑誌（第30巻 1号）（通巻30号）
2022年3月10日発行
編集 公益社団法人 石川県作業療法士会
発行所 公益社団法人 石川県作業療法士会
印刷 ヨシダ印刷株式会社